

2018 年度 「アイスクリーム類及び氷菓」販売実績

(メーカー出荷ベース)

～添付資料～

- ①販売実績(金額、物量)、リッター単価の推移(グラフ)
- ②種類別販売実績の推移(表)
- ③種類別販売金額の推移(グラフ)
- ④過去 10 年間の種類別販売物量・金額の推移(表)
- ⑤種類別 上/下期実績、リッター単価(表)
- ⑥形態別販売金額の推移(グラフ)
- ⑦過去 10 年間の形態別販売物量・金額の推移(表)
- ⑧形態別 上/下期実績(表)

2019 年 6 月 14 日

一般社団法人 日本アイスクリーム協会



1. はじめに

一般社団法人日本アイスクリーム協会では毎年、全国の会員からの報告にもとづき、1年間の販売実績を集計し、当協会調査実績として発表しています。

今年も2018年4月から2019年3月までの12ヶ月間を対象とした数値を発表いたします。

2. 販売実績概要

2018年度は5,186億円(メーカー出荷ベース) 前年比101.4%

2018年度を天候面で振り返ると、春から夏にかけては東・西日本中心に記録的な高温となり、日照時間も多い状況でした。特に夏は多くの地方で梅雨明けが関東甲信では6月29日ごろ、近畿では7月9日ごろと、平年7月21日ごろと比較して2~3週間早くなり、厳しい暑さが続きました。気温では熊谷で7月23日に41.1℃の国内歴代1位の高温を記録しましたが、東日本では春と夏の平均気温ともに1946年の統計開始以来最も高くなりました。一方で、7月上旬には本州付近の梅雨前線停滞で、西日本では記録的な豪雨で、土砂災害や河川の氾濫など甚大な被害が発生しました。9月以降は台風の接近・通過、秋雨前線の影響で、日照時間も少なく、降水量も多い状況でした。冬は平均気温がかなり高く、降水量が少なくなり、特に西日本日本海側の冬の降雪量は平年比7%と最も少なくなりました(統計開始1961~62年冬)。(2018年12月21日、2019年3月1日気象庁報道発表資料より)

アイスクリーム業界は天気が大きく影響を受けますが、春先は前年並みで推移の中、夏の猛暑が大きく影響し、アイスクリームの需要を引き上げました。一部メーカーでは最需要期の7、8月に在庫が品薄状態(特に氷菓)になり、店頭でもアイスクリーム売り場で欠品した状況も見られました。一変して秋からは天候のすぐれない中で消費マインドも冷えたためか、下期はアイスクリームの販売も前年を割りました。また、原材料費、物流費、人件費の高騰の影響により、3月には一部商品で値上げが見受けられました。

アイスクリーム市場規模は、2018年度5,186億円と2011年より7年連続の市場拡大で、この6年間で1,000億円を超える販売増加になっていますが、その伸長率は前年比101.4%と鈍化傾向が見られました。一方で販売物量では1994年以来90万kgを超え、前年比104.3%と大きく伸長しましたが、結果的にリッター単価が低下したことは猛暑の影響もあってリッター単価の安い氷菓、ラクトアイスの種類別が大きく伸長したことにも起因しています。

業界伸長・活性化の要因としては、各企業が従来の価格枠にとられない「付加価値の高い商品」を高生産性の新規設備導入で効率よく市場に供給してきたこと、従来の販促方法に加え、「SNSの活用強化でB to Cの囲い込み」が功を奏してきたことと推察しております。

今回の実績報告では、一部メーカーが取引制度変更での報告(減収)があったこと、従来報告の無かったメーカーの報告も加味したことも注記しておきます。

	2018 年度	2017 年度	前年差	前年比
販売金額(億円)	5,186	5,114	72	101.4%
販売物量(kℓ)	929,031	890,956	38,075	104.3%



3. 種類別実績

(1) 販売金額

種類別アイスクリームが大きく前年を下回りましたが、ラクトアイス、氷菓、アイスマルクが伸長しました。特に夏の猛暑の影響が大きく、上期の氷菓が10%以上伸長したのに加え、ラクトアイス、アイスマルクも大きく伸長しました。下期ではアイスクリームはほぼ前年並みでしたが、他の種類別では前年を下回った結果となり、特に氷菓は2割減と大きく下回った結果となりました。

(金額:億円、構成比:%)

区分	2018 年度				2017 年度	
	金額	構成比	前年差	前年比	金額	構成比
アイスクリーム	1,513	29.2	△84	94.7	1,597	31.2
アイスマルク	1,087	20.9	29	102.7	1,058	20.7
ラクトアイス	1,679	32.4	86	105.4	1,593	31.2
氷菓	907	17.5	41	104.7	866	16.9
計	5,186	100.0	72	101.4	5,114	100.0

(2) 販売物量

販売物量は前年比 104.3%と販売金額前年比 101.4%より大きく伸長しており、リッター単価(円/ℓ)がダウンしています。これはリッター単価の低い種別ラクトアイス、氷菓が構成比の中で伸長し、単価の高いアイスクリーム、アイスマイルクの構成比が下がったことに大きく起因しています。種別のリッター単価で上がったのはアイスマイルクのみで、全体的にはリッター単価が低くなっている傾向が見られました。また、取引制度の変更でリッター単価が下がったメーカーも一部あったことも影響しています。

(物量:kℓ、構成比:%)

区分	2018年度				2017年度	
	物量	構成比	前年差	前年比	物量	構成比
アイスクリーム	181,797	19.6	△3,501	98.1	185,298	20.8
アイスマイルク	182,186	19.6	2,945	101.6	179,241	20.1
ラクトアイス	373,582	40.2	27,516	108.0	346,066	38.8
氷菓	191,466	20.6	11,115	106.2	180,351	20.3
計	929,031	100.0	38,075	104.3	890,956	100.0

4. 形態別実績

(1) 販売金額

「モナカ」「その他一般」が伸長しましたが、ワンハンドでの食べやすさ、アイスクリーム市場で従来の形態にとられない商品が多くなっているためと思われます。

(金額:億円、構成比:%)

区分	2018年度				2017年度	
	金額	構成比	前年差	前年比	金額	構成比
紙カップ	883	17.0	16	101.8	867	17.0
プラカップ	436	8.4	△37	92.2	473	9.2
スティック	522	10.1	14	102.8	508	9.9
コーン	341	6.6	△6	98.3	347	6.8
モナカ	357	6.9	40	112.6	317	6.2
マルチパック	1,330	25.7	4	100.3	1,326	25.9
ホームタイプ	69	1.3	10	116.9	59	1.2
その他一般	676	13.0	30	104.6	646	12.6
業務用	572	11.0	1	100.2	571	11.2
計	5,186	100.0	72	101.4	5,114	100.0

注)「その他一般」には一口タイプ、サンドタイプ、もちアイス、飲むタイプ、ケーキ等を含む。

(2)販売物量

「スティック」「その他一般」「マルチパック」「紙カップ」の物量が大きく伸長しました。猛暑における氷系バーの需要が増えたこと、一口タイプの食べやすい商品が受け入れられたこと、紙カップの新商品で新しい需要喚起が貢献したものと思います。「スティック」「その他一般」の物量前年比のアップ率が、前述(1)で見る金額前年比のアップ率を大きく上回っていて、リッター単価(円/ℓ)の低下傾向は顕著になっています。

(物量:kℓ、構成比:%)

区分	2018年度				2017年度	
	物量	構成比	前年差	前年比	物量	構成比
紙カップ	146,495	15.8	7,852	105.7	138,643	15.5
プラカップ	83,284	9.0	△5,548	93.8	88,832	10.0
スティック	91,318	9.8	12,335	115.6	78,983	8.9
コーン	58,451	6.3	△1,928	96.8	60,379	6.8
モナカ	61,024	6.6	1,614	102.7	59,410	6.7
マルチパック	250,714	27.0	9,680	104.0	241,034	27.0
ホームタイプ	17,974	1.9	1,101	106.5	16,873	1.9
その他一般	100,452	10.8	11,163	112.5	89,289	10.0
業務用	119,319	12.8	1,806	101.5	117,513	13.2
計	929,031	100.0	38,075	104.3	890,956	100.0

以上